

無肥研の SDGs への取り組みについて

SDGs は 2015 年 9 月に国連サミットで採択され、世界中の人々が平等かつ安全に生きることのできる社会を作るため、2030 年までに達成する目標として、全部で 17 の目標（ゴール）と 169 の詳細な課題（ターゲット）が定められています。日本でも 2016 年に SDGs 実施指針が策定されました。その中で農業の分野に関しても、自然資本や環境に立脚した安全な食料を安定して供給することが求められています。無肥研におきましても、下記の目標とそれに関わる課題に取り組んでいます。

1. 農業が食料の供給を通して SDGs にどのように関わっているのか。

○該当目標 2 「飢餓をゼロに」

気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、環境と調和した持続可能な農業を推進する（2-4）

2. 農業は食料問題だけでなく、環境問題を解決すること。環境保護のためにも解決しなければならない問題がある。

○該当目標 12 「つくる責任つかう責任」

人の健康や環境への悪影響をなくすため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。農薬や肥料の不適切な使用は周辺の環境に悪影響を与える（12-4）

○該当目標 13 「気候変動に具体的な対策を」

近年の温暖化が高温障害や豪雨・台風などを引き起こし、日本の農業は広範囲で被害が出ている（13-2）

3. 無肥研の取り組み

地球上の自然環境破壊の原因の一つに農業生産活動がもたらす環境破壊が挙げられます。多量の化石燃料を用いて、製造される肥料や農薬類を田畑に多投入する近代農法は、生産性向上と引き換えに、大気、水、土壌を汚染し、また地球温暖化の一因として、人類に止まらず地上に生息するすべての生物に大きな影響を与えています。人類が生存を続けていく上において、安全で安心な良質の食物を十分に供給していくことは必要条件です。この問題を解決しようと、私たち有志は 1960 年頃から、長年にわたって環境を保全し、良質の作物を生産するために農作物の無施肥無農薬栽培とその普及活動を行っています。近年、SDGs が盛んに取り上げられていますが、当会では 60 年前からすでに環境保全型農業である無施肥無農薬栽培に関する技術や生産性、生産物の品質特性などについての調査研究、及び無施肥無農薬栽培技術の普及・啓発活動を続けています。

